

令和元年度 第1回 向日市国民健康保険事業の運営に関する協議会会議録

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 日 時 | 令和元年8月2日（金） 午後2時～3時45分 |
| 2 | 場 所 | 向日市役所 大会議室 |
| 3 | 出席委員 | 楠本会長、香本委員、梅地委員、山口委員、中川委員、大島委員
山本（哲）委員、山本（加）委員、森委員、福井委員（10名） |
| 4 | 欠席委員 | 河合委員、平田委員、堀委員、石井委員、湯山委員（5名） |
| 5 | 傍 聴 者 | 1名 |
| 6 | 議 題 | (1) 平成30年度向日市国民健康保険事業報告について
(2) 令和元年度向日市国民健康保険当初予算について
(3) 令和元年度向日市国民健康保険事業計画について
(4) その他 |

議事（要約）

- 1 部長あいさつ
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議題

(1) 平成30年度向日市国民健康保険事業報告について

<事務局からの説明>

- ・ 加入者は減少傾向であり、昨年度末と比較し629人減少。
- ・ 保険料の賦課について、計画どおりの保険料率に設定。
- ・ 保険給付費は加入者の減少により減少、一人当たりでは約6,000円の増加。
- ・ 重点事項の取り組み

特定健診受診率は昨年度と同率。

糖尿病性腎症重症化予防は昨年度より9人増の84人に受診勧奨実施。

健康ポイント事業は昨年度より150人増の600人参加。

保険料の収入状況は、現年度収納率が96.76%となり府下1位。

過年度収納額は、3,650万円となり、前年度より220万円増加した。

償還金については、今後も京都府と協議し対応

<委員からの意見>

- ・ 特定健診の対象者数は、40代の割合は。
- ・ 受診率が上がると医療費が下がる傾向であれば、受診率は上げていかなければいけない。

(2) 令和元年度向日市国民健康保険当初予算について

<事務局からの説明>

- ・ 歳入の保険料は約10億8,600万円となり、前年度から1%増。一人当たり保険料は計画どおり約6%の引上げを実施したが、被保険者数が減少のため、保険料総額としては微増。
- ・ 歳出の保険給付費は40億円で、歳入の府支出金として全額交付
- ・ 広域化後の予算は、医療費は府交付金があるため、実質、国民健康保険事業納付金と

保険事業費の歳出と保険料と繰入金がおおよそイコールになるように予算編成を行う。

- ・今年度は平成28年度概算交付された前期高齢者交付金の精算金2.1億円の返還が必要であり、激変緩和分を差し引いた実質1.9億円を保険料へ上乗せしなければならないが、保険料改定段階のため負担を求めるべきでないと判断し、法定外で1.9億円計上。

＜委員からの意見＞

- ・財産収入とは何か。

（３）令和元年度向日市国民健康保険事業計画について

＜事務局からの説明＞

- ・重点事項として、健康づくり、医療費の適正化、国保財政の健全化を設定
- ・特定健診の受診勧奨は、電話、訪問、ハガキによる勧奨を対象者に合わせて実施
- ・成果習慣改善に向けた産官地域連携事業として、地元フィットネス事業者と連携し無料体験チケットを配布。
- ・健康ポイント事業は平成29年度からの継続事業で、対象の取組みを拡大し、達成者数の増加を目標に実施。
- ・医療費適正化のパンフレットを作成し、加入者に正しい知識を持ってもらえるよう周知。
- ・後発医薬品の使用率向上のため、差額通知を送付
- ・重複受診者や多種・多量の薬剤の処方を受けておられる方に、専門のレセプト点検員から状況を確認し、適正な医療の利用の普及や啓発を実施
- ・保険料の収納率向上を目標に、早期納付勧奨や、細かい対応による滞納整理を実施。
- ・事業経費を助成する従来型の補助金だけでなく、努力や成果に応じた補助金の獲得
- ・償還金の返済について、本市の財政状況が厳しい状況であることから、柔軟に対応していただけるよう京都府と協議している。

＜委員からの意見＞

- ・保険料を払っていないと保険証はもらえないのか。
- ・特定健診の受診者と未受診者の医療費の差月2万5千円あるのなら、40代の方が受診率が上がれば、医療費が継続的に下がり大きな成果になる。
- ・特定健診を受診しない理由を把握しているのか。
- ・向日市は1番が多い。市民は知っているのか。
- ・薬の処方でのどのような働きかけを行っているか。
- ・患者側も自分で判断できるように知識をつける必要がある。
- ・健康ポイント事業の広報はどうしているのか。

7 その他

＜委員からの意見＞

- ・パンフレットは市民が読む気になるような工夫が必要である。予算をかけてもよい。